

[様式14]

(対象事業：1、子どもを対象とした事業及びその開発にかかる事業)

事業名：

学校サテライトワークショップで博・学・地域連携

事業者名：

学校サテライトワークショップ実行委員会

連携事業館名：

野洲市立野洲北中学校、湖北町立朝日小学校、湖北町立小谷小学校、湖北町立速水小学校、湖北町教育委員会

住所：滋賀県草津市下物町1091番地

TEL：077-568-4811

FAX：077-568-4850

HPアドレス：<http://www.lbm.go.jp/>



①施設概要

学校サテライトワークショップ実行委員会は、滋賀県立琵琶湖博物館内にある。当館は、開館して11年目に当たり、3つの基本理念を元に活動を展開している。そのうち「交流の場としての博物館」をテーマとしながら、アウトリーチ先における学校や地域と交流する事業として展開した。

②事業の意図目的

当館は、滋賀県南部地域にある。実際、北部住民にとっては、決して身近な博物館とは言えない。そこで、博物館拠点を県北部に設ける意図を込めながら、少子化の影響を受け教室が空く学校に移動博物館を設置した。しかし、モノを移動させるだけでは拠点設置の趣旨に添うことはないと考え、移動博設置校の地域・学校でワークショップを実施しようとした。これによって、ヒトの移動や交流が生まれ、常に人々が集い、人々に親しまれる場を創ろうとする。特に子どもたちに本物の文化財に触れる機会を提供し、地域の文化資源を生かしたまちづくりを実現しようとするものである。

③事業概要

博物館のサテライト化事業（移動博物館事業）に付随するものとして行う事業である。野洲市立野洲北中学校、湖北町立朝日小学校、小谷小学校、速水小学校、湖北町民を対象にして、滋賀県立琵琶湖博物館からワークショップの講師を派遣し、体験学習を実施する。総合博物館としてのよさを生かし、地域素材に根ざした文化に関するワークショップを実施する。歴史文化的な素材とともに美術・造形的な色彩を取り入れた教材を提供するものである。

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物	テキスト	ワークシート	その他（	）
作成した報告書等				
ビデオ（	ありません			）
冊子（	ありません			）
その他（	ありません			）

⑤参加者状況

参加者人数 実数 539 人

内 訳	野洲市立野洲北中学校	36人
	湖北町立朝日小学校	172人
	湖北町立小谷小学校	138人
	湖北町立速水小学校	134人
	湖北町民ふれあい祭参加地域住民	59人

(1) 事業の実施状況について (事業の一部：写真1～4参照)

実施回	実施時期 (予定)			計画事項							講師 数	摘 要
	月	日	曜	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		
				たねのふしぎをさ ぐろう	化石を観察してレ プリカを作ろう	花を集めて押し花 や青写真にしよう	身近な水を調べ、 人々のくらしを考 えよう	伝統的なおもちゃ を作ろう	縄文時代にタイム スリップ！	偏光スコープを作 ろう		
1	9月20日	木		たね							1	ワークショップ 会場校事業試行
2	9月25日	火				青写真					2	野洲北中open記念workshop①
3	10月22日	月									2	朝日小open記念workshop①
4	10月23日	火									2	小谷小workshop①
5	10月26日	金									2	速水小workshop①
6	11月3日	土				青写真					3	湖北町民ふれあい祭りworkshop②
7	11月13日	火			化石を観察してレ プリカを作る						2	朝日小workshop②
8	11月14日	水									2	小谷小workshop②
9	11月16日	金									2	速水小workshop②
10	12月5日	水									2	野洲北中workshop②
11	11月27日	火				花を集めて押し 花や青写真にし よう					2	速水小workshop③
12	11月28日	水									2	朝日小workshop③
13	11月29日	木									2	小谷小workshop③
14	12月11日	火					身近な水を調 べ、人々のくらし を考えよう				2	小谷小workshop④
15	12月12日	水									2	速水小workshop④
16	12月14日	金									2	朝日小workshop④
17	1月15日	火						伝統的なおも ちゃを作ろう			2	朝日小workshop⑤
18	1月16日	水									2	速水小workshop⑤
19	1月18日	金									2	小谷小workshop⑤
20	1月29日	火							縄文時代にタ イムスリップ！		2	小谷小workshop⑥
21	2月1日	金									2	速水小workshop⑥
22	2月6日	水									2	朝日小workshop⑥
23	2月13日	水								偏光スコープを 作ろう	2	朝日小workshop⑦
24	2月14日	木									2	小谷小workshop⑦
25	2月15日	金									2	速水小workshop⑦

※青字は、契約前提出様式2から変更した実施日ならびに対象学校(トータルは変更無し)

変更理由は、授業研、児童会活動等の学校行事、学級閉鎖による対象学級の休級
また、ふれあい祭りのプログラム変更は、教育委員会との話し合いによる

写真1 たねのふしぎをさぐろう (たねの落ち方、広がり方実験)



写真2 花を集めて押し花や青写真にしよう



写真3 縄文時代にタイムスリップ！（縄文コースターづくり）



写真4 偏光スコープを作ろう



(2) 地域との連携について

11月3日(土)、湖北町民ふれあい祭りにおいて、本実行委員会派遣講師が湖北町民交流センターへ赴き、ワークショップ「花を集めて押し花や青写真にしよう」を開催した。住民59名が参加し、地域に咲く花や葉を集めることができた。造形的にもシルエットを創造する作品を創っていただくことができた。子どもたちだけではなく、大人も作品作りに取り組んでおられた(写真5参照)。

写真5 湖北町民ふれあい祭りにおいて



(3) 成果物について

児童生徒や住民が作られた作品は、お持ち帰りいただいております、ありません。

(4) 参加者の反応

○「たねのふしぎをさぐろう」から

小6児童「木は、自分たちの子孫を残そうとして、いろいろなたねのとばし方をするんだなあ、と思った。特に裏山へ登って、そこにあるもみじのたねがまるでプロペラのようにはひらひらとまいおりていくのを見てびっくりした。」

小3児童「たねにもいろいろあるんだな。ふしぎな形がいっぱいある。そのまま形を紙にうつして絵にしたいな。」

○「化石を観察してレプリカを作ろう」から

中3生徒「古代化石の表面を観察するだけでなく、少し削って縫合線を確認することができた。なかなか見られるものではないのでうれしかった。私は美術部に入っているの、今日の学習を生かした作品を作ってみたい。自然が生み出す模様に興味を持った。」

小5児童「本物の化石をさわったことが初めてで感げきした。もようもきれいだった。スケッチしたら、先生にほめてもらえた。」

○「花を集めて押し花や青写真にしよう」から

小4児童「きれいな青写真をつくることができた。まるで図工みたい。」

中3生徒「季節感のある作品に仕上げようと思った。少し工夫をしたらぼかしを入れることができた。身近な草花がこうした作品になるのは新しい取り組みだ。」

○「身近な水を調べ人々のくらしを考えよう」から

小4児童「にごっていることが多い川の水だけど、いがいときれいだとわかった。これからも水を大切にしたいな。」

小3児童「昔は水道がなかったから、川やいどの水を使っていたということを勉強しました。」

○「伝統的なおもちゃを作ろう」から

小3児童「ちょっと押したらぴよんとはねるおもしろいおもちゃができた。図工でもこんなおもちゃを作りたいな。」

小5児童「上にある人形は、この辺の人形作りをもとにしていると知って、少しびっくりした。今は人形を作っている家はあまりないのに。」

○「縄文時代にタイムスリップ！」から

小5児童「6年生になったら歴史を習うので、とても楽しみにしていました。縄文時代の作品を作れてうれしかった。」

小6児童「社会で縄文時代のことを習ったけど、本当に縄のもようをつけた作品を作れてとてもよかった。皿でもつぼでものっぺらぼうでよかったのに、縄文時代の人はずなぜ縄のもようを入れたんだろう。もしかしたら私がまんがのイラストをかくような感じなのかな。」

○「偏光スコープを作ろう」から

小4児童「まんげきょうを作れてよかった。家に帰ったら妹に取られるかなあ。取られないようにしよう。」

小5児童「光がまがることでへんなもようができました。もっとへんなもようをつくってみたいと思いました。」

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

滋賀県南部に位置する琵琶湖博物館が北部へ移動博を催した事業で、仮に展示物だけを移動させたとしたら、果たして今回のような生き生きとした子どもたちや地域住民の笑顔を見ることができたでしょうか、また、果たして人々が学校や地域交流センターに集まり、お互いの作品を鑑賞し合っただろうか。今回の事業をとおして、お仕着せの文化財紹介の限界とワークショップによる可能性を感じさせた。実際、本実行委員会のワークショップを参考にして、来年度のふれあい祭りで工夫したいとする発表団体があるという。ワークショップごとに人々が集い、人々に親しまれる、魅力あふれる場を構築することがある程度達成したのではないかと考える。特に子どもたちに教科書では得られない、本物の美術・文化財に触れる機会を提供することができたと考える。

○新聞記事

（第三種郵便物認可）

2007年(平成19年)12月25日(火曜日)

言

投稿・意見・情報提供などは編集室へ 電話077-522-5602・5507 FAX077-522-5589 メール

湖北町立小谷小

出来上がった作品を興味深そうに眺める3年生

実験通し「光の不思議」

湖北町立小谷小学校（同町下野）の3年生が、「光」をテーマに「学校サテライト」と題して書き真を撮ろうというワークショップの一環として実験を通して光の不思議について学習した。

町立琵琶湖博物館が同町内の小学校を対象に取り組

3年生は理科の授業で光の進み方や太陽の周回について学んでおり、授業の発展的な取り組みとして感光紙を使った作品作りをした。

理科室に集まった2人の児童は、落し葉や木の葉など身近にあるものを感光紙に入れた黒紙に載せて思い思いにデザイン。影になった部分を書くやうに仕上がった作品を不思議そうに友達と見合っていた。

村井あさひさん（9）は「きれいに写ったけど、仕組みは不思議だった。理科の授業が楽しみたいを輝かせた。調子を合わせた同博物館にはしかけクルーさん25人は光や身近な自然のことに興味を持ってもらえればうれしいと話していた。

若アユ日記

学校の
たがもの